

渋谷瑠子

渋谷瑠子『無礙の光』1929（昭和4）年12月 柳正堂書店

茂手木みさを

茂手木みさを『一隅の薔薇』1930（昭和5）年3月 朝日書房

佐野四郎

佐野四郎『杉の花粉』1934（昭和9）年7月 朝日書房

「コスモス」432号 1988（昭和63）年12月

佐野四郎「日のゆふへ行きて耕さむおもひわくすくひの如き富士みゆる丘」幅

【俳句】 13名

今村霞外

山廬（飯田蛇笏）『法燈』序 原稿

今村霞外『法燈』1954（昭和29）年8月 私家版

今村霞外「初汐にのりて美しすて扇」短冊

五味洒蝶

五味洒蝶『洒蝶句集』1964（昭和39）年9月 雲母社

五味洒蝶「寒瀑をみる人まれに石叩」短冊

辻 蔭村

「青栗」創刊号 1951（昭和26）年9月

辻蔭村『樹影』1973（昭和48）年7月 雲母社

辻蔭村「山に来て何を踏みても春隣り」短冊

榎本虎山

榎本虎山『餘花』1972（昭和47）年1月 雲母社

榎本虎山「蛩るていのち静かに露を染む」短冊

角田雪弥

角田雪弥『畦火』1987（昭和62）年7月 竹頭書房

角田雪弥「竹の葉によすがのひかり冬の水」短冊

山田岫雲

山田岫雲『朴の花』1975（昭和50）年11月 発行 山田武雄

山田岫雲「山駅の夜半の人数や富士道者」短冊

柏木白雨

柏木白雨『白雨句集』1977（昭和52）年7月 若葉社

柏木白雨「夕富士のほの紫や花の上」短冊

鈴木青処

鈴木青処「祖母のみて紅梅苔む子の娶り」短冊

山口青邨選「稿本青処句集」

堤俳一佳

堤俳一佳『俳一佳句集』1951（昭和26）年4月 裸子発行所

堤俳一佳「虚子庵の梅見頃なる年賀哉」短冊

「裸子」創刊号1949（昭和24）年10月

加賀美子麓

加賀美子麓『火度』1987（昭和62）年8月 牧羊社
加賀美子麓「夕星のあとの夜星や葡萄熟る」色紙

赤堀五百里

赤堀五百里『萬里』1995（平成7）年5月 読売・日本テレビ文化センター
赤堀五百里「淵明も李白も来よや屠蘇酌まむ」短冊

石原八束

石原八束「原爆地子がかげろふに消えゆけり」短冊
石原八束『秋風琴』1955（昭和30）年8月 書肆ユリイカ

新免一五坊

「菊十句集」子規選作品集 1899（明治32）年11月
「菊十句集」点取表
正岡子規「燈籠にふたたびともす夜半哉」扇面色紙

【川柳】 4名

篠原春雨

篠原春雨書「こからしやあとて芽をふけ川柳 初代川柳辞世句」色紙
『篠原春雨句集』1929（昭和4）年8月 春雨句集刊行会

中沢春雨

中沢春雨「音かすかにランプにいのちある如く」色紙
『中沢春雨川柳句集』1967（昭和42）年11月 甲陽書房

雨宮八重夫

雨宮八重夫『遍路美知』1977（昭和52）年9月 サンケイ新聞社

田中浮世亭

田中浮世亭「浮世亭句抄」

【漢詩】 3名

香川香南

香川香南『香南詩鈔』1926（大正15）年11月
香川香南『香南晚稿』1934（昭和9）年12月

笠井南村

笠井南村 七言絶句「還郷有感」色紙
『翰墨縁』詩稿・印譜

村松蘆洲

村松蘆洲「送兒定孝之瑞西」色紙
村松蘆洲『蘆洲詩集』1980（昭和55）年5月 発行人 村松定孝

(2) 企画展示

例年、企画展は春と秋の二回開催し、夏は常設展の一環として「特設展」を開催してきたが、平成22年度は、この夏季の展示を隣接する県立美術館との共同開催による特別展「くじらぐもからチックタックまで 一小学校国語教科書にのった思い出のお話原画展―」とし、特設展の開催は無かった。

① 山崎方代展 右左口はわが帰る村

期 間 平成22年5月1日(出)～6月27日(日) 50日間

趣 旨 山梨県甲府市右左口出身の歌人山崎方代（1914～1985）の歿後25年となる2010年、方代の故郷甲府市と文学館との地域連携をはかった展覧会を開催することにより、山梨の生んだ歌人山崎方代の魅力を広く県内外に紹介した。



(上) チラシ
(右上) 展示室の様子
(右下) 展示室の様子

編集委員

馬 場 あき子 (歌人)
大 下 一 真 (歌人、「方代研究」編集室)

主 催 山梨県立文学館・甲府市教育委員会
協 力 方代会・方代を語り継ぐ会

展示構成

序章 故郷右左口村
I 歌人方代の歩み
II 歌とともに
III 鎌倉手広 方代艸庵より
IV 『迦葉』への到達
終章 方代を思う

② 美術館・文学館共同特別展

くじらぐもからチックタックまで ―小学校国語教科書にのった思い出のお話原画展―

期 間 平成22年7月25日(日)～8月29日(日) 31日間

趣 旨 小学校の国語の教科書にのったお話を集めて、その挿絵原画を物語とともに紹介する。隣接する県立美術館との共同開催事業で、美術館を第一会場、文学館を第二会場として、美術館では「くじらぐも」(作＝中川李枝子・絵＝柿本幸造)、「スーホの白い馬」(再話＝大塚勇三・絵＝赤羽末吉)などの低学年向けの作品を、文学館では「ごんぎつね」(作＝新美南吉・絵＝かすや昌宏)や、「白いぼうし」(作＝あまんきみこ・絵＝いわさきちひろ)など高学年向けの作品を展示。世代を超えて長く掲載されている作品も多く、親子で楽しむことができる展示とした。



(上) チラシ
(右上) 展示室の様子
(右下) 展示室の様子

主 催 山梨県立美術館・山梨県立文学館
特別協力 光村図書出版株式会社
企画協力 有限会社フロネーシス桜蔭社・山梨大学教育人間科学部国語教育講座

③ 井伏鱒二と飯田龍太 往復書簡 その四十年

期 間 平成22年9月18日(土)～11月23日(火) 60日間

趣 旨 小説と俳句というジャンルを超えて、お互いの文芸と人柄に惹かれ合い、四十年余の交流を結んだ井伏鱒二と飯田龍太。ふたりが交わした400通に及ぶ書簡を中心に、互いに贈った書画、折々の写真などによって、心豊かな文芸交流の世界を浮かび上がらせた。



(上) チラシ
(右上) 展示室の様子
(右下) 展示室の様子

編集委員

廣瀬直人 (俳人・「白露」主宰)
三浦哲郎 (作家)
近藤信行 (当館館長)

主催 山梨県立文学館
共催 山梨日日新聞社

特別協力 井伏節代
飯田秀實

展示構成

出会いまで
Ⅰ 荻窪から、境川から
Ⅱ 創作の周辺
Ⅲ 晩年の日々

(3) 収 蔵 品 展

「直筆の魅力 中里介山・斎藤茂吉・飯田蛇笏・太宰治・檀一雄・山崎方代ほか」

会 期 平成23年1月19日(水)～3月27日(日)

会 場 企画展示室内〈観覧無料〉

主 な 展 示 資 料

- 中里介山「大菩薩峠 無明の巻」原稿
中里介山 春秋社神田豊穂宛書簡 1930（昭和5）年7月12日
斎藤茂吉「三井甲之氏に答ふ」原稿
太宰 治 竹村坦宛書簡 1945（昭和20）年11月
伊馬春部「太宰治われにのこすに伊藤左千夫を以てす」色紙
檀 一雄「師の墓地」原稿
檀 一雄 水彩画
樋口一葉 雨宮源吉宛書簡 1893（明治26）年12月7日
加藤千蔭「源氏物語」帚木 写
飯田蛇笏「切株や雪とけしたる猿たけ」軸装
飯田蛇笏「川波の初明りして詣て船」軸装
飯田蛇笏「朱明抄」原稿
高室呉龍「白牡丹やうやく重し月の前」軸装
飯田龍太「春暁の竹筒にある筆二本」額装
飯田龍太「いのちの詩」原稿
山崎方代「一枚の赤き木の葉がとこしえに木曾谷深く舞ってゆく」軸装
山崎方代「何にごともなかったように一本の杉は季節の花をつけたり」軸装
山崎方代「宿無しの吾の眼玉に落ちてきてどきりと赤い一ひらの落葉」色紙
山崎方代「夕ばえに赤くのびたる石くれをあやぶくぞわが躰がんとぞする」色紙
山崎方代「茶ぶ台の上の土瓶に心中をうちあけてより楽になりたり」色紙
山崎方代「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」短冊
山崎方代「木屋の花の香りが風にのり路地一ぱいは黄金色なり」短冊
山崎方代「新聞紙に腰を下して空つぼの頭の先を陽に干しておく」一枚物
山崎方代「裏の柿の木に日が当りいて女は遠方にある」一枚物
金子光晴「機械」草稿
大鹿 卓『松の實』草稿
深沢七郎 小林正徳宛葉書 1983（昭和58）年3月29日
深沢七郎 小林正徳宛書簡 1984（昭和59）年10月11日
竹中 労「父・竹中英太郎のこと」原稿
熊王徳平「戦死」原稿
有本芳水 熊王徳平宛葉書 1966（昭和41）年11月18日
有本芳水 熊王徳平宛書 1973（昭和48）年10月12日
新川和江「秘歌」原稿
新川和江「窓」原稿
早川重章『ホシコ—星をもつ馬』表紙・挿絵原画

〈やまなし文学賞小説部門受賞作新聞掲載時挿絵原画〉

- 堤 春生「日向の王子」挿絵原画
横瀬信子「密かな名人戦」挿絵原画
横森喜鴻「けんちん汁」挿絵原画
天野 昭「恩寵」挿絵原画

伊藤 仁「佇立する影」挿絵原画
内海仁美「額紫陽花の花」挿絵原画

〈印刷資料・第四次「新思潮」関連資料〉

「強力伝」台本（原作：新田次郎 脚本：早坂暁）

「隠し砦の三悪人」台本（脚本：菊島隆三・小国英雄・橋本忍・黒澤明）

「不良少年」台本（原作：西村滋「笑わない青春の記」脚本：菊島隆三・西島大）

「新民謡 御坂音頭」パンフレット

「郷土人形」復刊1・2・3号 1952（昭和27）年4月、1953年7・8月

第四次「新思潮」第1巻第2号請求書

第四次「新思潮」第1巻第2号領収書

第四次「新思潮」第1巻第6号委託販売伝票

(4) 教育普及事業

1. 事業の基本的な考え方

教育普及事業は、調査・収集・整理・保存・展示・研究などの諸活動とともに、文学館活動の中で重要な位置を占める。県民のニーズに対応し、社会教育・学校教育との連携を図り、県民や来館者の生涯にわたる学習がより一層進展するように学習支援を行なう。

文学専門の博物館としての特殊性を生かし、年間を通しての文学講座の開催、講演会の開催、文学的に価値ある映画の上映、朗読鑑賞会、県内の文学ゆかりの地を訪ねる文学散歩を開催する。

さらに、山梨ゆかりの作家や作品の資料を活用した学習プログラムや子ども向け事業の充実を図ることは、郷土への関心を高め、郷土を愛し、郷土に誇りを持つような心情を育むという点から重要である。

子どもから大人までの幅広い県民の文学活動の中心となり、文化の発信拠点としての役割を果たすため教育普及活動を展開していく。

2. 教育普及活動の内容

(1) 年間文学講座

年間文学講座は平成2年度から実施している。県民の興味・関心に応じて幅広く学べるよう配慮し、テーマ設定に当たっては講師の専門性を生かすとともに、県民のニーズに対応できるよう、土・日や平日にも開講する。

平成22年度は、外部講師による「古典文学講座（全8回）」と「近代文学講座（全8回）」の2講座を実施した。講座1のテーマは「芭蕉を読む」、講座2のテーマは「芥川文学における〈虚構〉と〈現実〉」であった。

(2) 山梨の文学講座

「山梨の文学講座」は、当館の展示作家を中心に、山梨出身・ゆかりの文学と人についての講座を実施し、当館学芸員が講師を務めた。

(3) 平成22年春・秋企画展 美術館文学館共同特別展 関連教育普及事業

春の企画展「山崎方代展 右左口はわが帰る村」、特別展「くじらぐもからチックタックまで—小学校国語教科書にのった思い出のお話原画展」及び秋の企画展「井伏鱒二と飯田龍太」に関連して、作家・研究者・関係者による講演会や関連講座を行う。企画展のテーマを詳しく解説し、展示では扱えなかった視点から考察を加えるとともに企画展そのものへの理解を深められるように実施する。外部講師及び職員による講演会・講座などを通して文学を学ぶ機会とする。

- ①外部講師及び職員による講演会・文学講座事業を実施する。
- ②関連映画鑑賞会を実施する。
- ③ギャラリートークは、土、日、祭日を中心に行う。その他、展示解説は要望により随時実施する。
- ④子どもから大人まで楽しく興味を持って観覧できるよう、企画展クイズを作成。
- ⑤企画展の内容によっては、子ども向け事業を実施する。（朗読会など）

(4) 名作映画鑑賞会

本企画は、有名な文学作品を映画化した名作の数々を上映し、文学と映画の関わりについて、多くの県民とともに考える企画である。平成2年から毎年実施してきたものである。なお、企画展開催期間中には、関連映画の鑑賞会も計画している。平成22年度は全7回実施した。

(5) 文学のつどい

県民の文学への興味・関心を深めるとともに、県民文化の向上に資することを目的とする講演会で、平成22年度もくやまなし文学賞研究・評論部門を受賞した方を講師として、6月に講演を実施した。

(6) 朗読鑑賞会

作品（詩・小説など）の魅力を朗読によって鑑賞する企画である。開館の年から実施し、毎年開催、幅広い年齢の聴衆から大変好評を博している。県内外から著名な講師を呼んで実施する。平成22年度は、劇団による朗読劇を8月に実施した。

(7) 山梨の文学散歩

16年度から秋の企画展関連事業として実施している。実行委員会とNPOとの協働事業とし、コースとなる市町村の協力のもと開催する。企画展観覧後文学ゆかりの地を訪ねることで、より興味深く学習できる内容にする。平成22年度は、企画展「井伏鱒二と飯田龍太」にあわせ実施した。

(8) 山梨の文学解説講座

この講座は、学芸課の職員が、要請された市町村等に関連のある県出身・ゆかりの文学者の人と作品を紹介する講座である。当館の研修室・講堂等あるいは市町村等において、説明・講義する。

(9) 就業体験（ジュニアインターンシップ）受け入れ

子どもたちの職業観・勤労観を、より早い段階から育成するとともに、将来、自らの進路を自分自身で選択できる能力を育てていくことが課題となっている。文学館としても、中・高校生の職場見学やジュニアインターンシップを積極的に受け入れ、若年者の職業意識形成支援に積極的に取り組む。

(10) 教師のための学習会開催

県内の小・中・高校の教師を対象に春と秋の企画展に関わって、文学館職員による説明と展示観覧を通して、国語教育への活用を図る。

(11) 児童生徒向け事業について

将来の山梨を担うことになる子どもたちに、優れた文学と文学者の存在に気付かせるきっかけを作る。若者の読書離れの実態を考慮し、学校教育との連携をより緊密にして、文学を通して豊かな心を育てていく。

① 文学教室

年間を通じ、随時開催する。小学校、中学校、高等学校の要請に応じ、当館が展示する内容について、当館の研修室・講堂等、あるいは各小中学校、高等学校において、説明・講義する。当館所蔵の視聴覚資料を十分活用し、実施する。

② 子ども名作映画会

当館講堂において、夏休み（1回）、春休み（1回）の期間中に良質の映画の上映を行う。

③ 親子ほのぼの朗読会

18年度から実施している。「肉声で聴く文学」である朗読は、子ども達により楽しく、親しみをもって文学を身近に感じてもらえる機会となる。県内で活躍する朗読指導者等の協力を得て土曜日に実施し、低年齢の子どもから大人まで、家族や親子で朗読に親しむ機会とする。平成22年度は、6月、8月、11月の3回実施した。

④ 教育普及用資料集（ジュニアガイドブック）

学校教育との連携の一環として、山梨県出身およびゆかりの文学者と文学作品について、わかりやすく解説したジュニアガイドブックを作成。常設展示室リニューアルにあたり、飯田龍太の紹介を入れて新たに作成した。文学教室資料として活用し、子どもたちが文学への興味や関心を持てるようにする。

⑤ 学習資料の貸与

館作成資料の一部を学習のために貸与する。要請により、学校をはじめ、生涯学習事業等に対して貸与を行う。

⑥ 常設展クイズ

常設展を見に来た子どもたちが、常設展のポイントをつかんで楽しく観覧できるように、「常設展クイズ」を作成し、活用を図っている。

さらに、今年度も夏休みフリーパスポートの活用により、夏休み期間中は「夏休みチャレンジ文学館」として、子どもたちへの浸透を図る。

⑦ 企画展チャレンジクイズ

楽しみながら企画展の内容が学べる小中学生対象のクイズを作成。「チャレンジクイズ」を通して、文学や作家について学ぶ機会を提供する。

平成22年度 教育普及事業の実施状況

分類	内容 講師等	開催日・会場等	参加人数
文学講座 1	「芭蕉を読む」 両角倉一(山梨県立大学名誉教授)	水曜日 14:00～90分間 年8回 研修室	全8回 計697人 平均87人
文学講座 2	「芥川文学における〈虚構〉と〈現実〉」 小菅健一(山梨英和大学教授)	土曜日 14:00～90分間 年8回 研修室	全8回 計744人 平均93人
文学講座 3	「山梨の文学」 夏雲むるるー飯田蛇笏 夏の俳句 井上康明(学芸幹) 芥川龍之介 16歳の旅 ー丹波山から塩山・甲府へ 保坂雅子(学芸員) 山本周五郎の創作背景 加藤正彦(学芸参事)	木曜日 14:00～70分間 年3回 研修室 6/24 10/14 12/2	全3回 計158人 平均53人 63人 45人 50人
3講座参加者合計			1599人
春 企画展関連事業 「山崎方代展 右左 口はわが帰る村」	講演会「方代の歌の魅力」 馬場あき子(歌人) 座談会「方代短歌を味わう」 来嶋靖生(歌人) 三枝浩樹(歌人) 大下一真(歌人・「方代研究」編集室)	5/15(土) 講堂 6/6(日) 講堂	320人 189人
春の企画展関連事業 参加者合計	短歌教室「はじめての短歌教室」 文学講座「方代と故郷右左口」 中野和子(学芸員) 教師のための学習会 中野和子(学芸員)	5/30(日) 研修室 5/29(土) 研修室 6/18(木)	45人 101人 23人
共同特別展関連事業	記念講演会「くじらぐもといっしょに」 中川李枝子(児童文学作家) おとなを休もう「ごんぎつね」 岡村太郎(小学校教諭) 教科書ができるまで&デジタル教科書体験 飯田順子・森下耕治 子ども映画会「ごんぎつね」「怪談芳一物語」 親子ほのぼの朗読会 「本を読むのはたのしい！よむ・読む・きく・聞く」 溝口朗読サークル 「思い出いっぱいのお話の感想文」展 夢のうろこで龍をつくろう！	7/25(日) 講堂 7/31(土) 研修室 8/1(日) 研修室 8/8(日) 講堂 8/28(土) 素心菴 会期中展示 美術館・文学館 会期中 文学館	303人 40人 70人 263人 74人 523人 1980人
特設展関連事業 参加者合計			3253人

秋 企画展関連事業 「井伏鱒二と飯田龍太 往復書簡その四十年」	講座「思い出の井伏鱒二・飯田龍太」 川島勝(元講談社編集者) 聞き手:近藤信行(当館館長)	10/ 3(日) 研修室	96人
	講座「井伏鱒二の甲州」 東郷克美(早稲田大学名誉教授)		
	講演・対談「甲斐・龍太山廬」 廣瀬直人(俳人、「白露」主宰)	10/23(土) 講堂	150人
	文学講座 「手紙でたどる文芸交流 井伏鱒二と飯田龍太」 高室有子(当館学芸員)	10/31(日) 研修室	58人
	井伏鱒二・飯田龍太ゆかりの地文学散歩 井伏鱒二・飯田龍太ゆかりの地文学散歩	10/17(日) 10/30(土)	43人 33人
秋の企画展関連事業 参加者合計	ギャラリートーク 27回		344人 724人
名作映画鑑賞会	「小島の春」	4 /18(日) 講堂	214人
	「それから」	6 /27(日)	398人
	子どもアニメ「ごんぎつね」「怪談芳一物語」	8 / 8(日)	263人
	「故郷」	9 / 5(日)	313人
	「赤ひげ」	10/24(日)	246人
	「炎上」	11/28(日)	364人
	再上映「それから」	1 /30(日)	406人
	子どもアニメ「笠じぞう」「猫の事務所」	3 /13(日)	103人
参加者合計		2307人	
文学のつどい	「山梨ゆかりの幕末期江戸文人たち －友野霞舟,中村敬宇,森田桂円のことなど－」 揖斐高(成蹊大学文学部教授) 「市場のなかの文学－菊池寛と金子洋文－」 紅野謙介(日本大学文理学部教授)	6 /13(土) 研修室	43人
朗読鑑賞会	朗読劇で文学に親しもう	8 /22(日) 講堂	225人
俳句創作 プログラム	百人一首教室 ①	1 / 8(土) 素心菴	42人
	百人一首教室 ②	1 / 8(土) 素心菴	67人
	女性のための短歌教室①	2 / 5(土) 研修室	30人
	女性のための短歌教室②	2 /13(日) 研修室	30人
参加者合計		169人	
親子ほのぼの 朗読会	第1回親子ほのぼの朗読会 塩山やまびこ会	6 /12(土) 素心菴	30人
	第2回親子ほのぼの朗読会 溝口朗読サークル	8 /28(土) 素心菴	74人
	第3回親子ほのぼの朗読会 朗読の会すずらん	11/ 6(土) 素心菴	52人
参加者合計		156人	